



深山たかし

発行元：深山たかし後援会
上尾市大字上1774-7
048(776)0575
ホームページ

fukayama.net

”深山たかし”でも閲覧できます。

議会レポート

市長の図書館建設工事見直しの判断は、最初から決められていた？

私は、畠山市長の判断について、何回も読み直しました。

市長の判断の主な理由は、「新図書館複合施設の整備事業がランニングコストの観点から市財政に与える影響が大きいから」ということ。その上で、「取得した用地については、地域の特性を踏まえ、市民の方々に喜んでいただけるような施設を検討していく」こと。「図書館本館はまちの中心部にあるのが自然であると考え、当面現在のままとすること」としています。

これまでの経過

- 【二月】 反対派二団体、推進派一団体に面会
- 【六月】 政策会議で結論を決定
- 【六月十四日】 一般質問で見直し表明
- 【六月二十七日】 業者に説明
- 【七月】 図書館ホームページで見直し理由掲載。地元区長会、地権者に説明
- 【七月九日】 業者契約解除
- 【八月】 広報あげおに理由掲載

六月議会で表明した「新図書館複合施設建設の見直し」の真意を

尋ねました。

九月議会では、多くの議員から新図書館複合施設整備事業について質問がありました。

私への答弁を含めて、意図的に答弁しない、あるいは答弁しても、適切に質問内容を捉えなうえでの答弁になつていない、別の言葉で言えば、すり替えて答弁しているとの印象を受けます。

私は、長年議員を努めていますが、こんな不誠実な答弁が乱発される議会は初めてです。

具体的には、私が、「判断に至るまで、市民からの様々な意見をどのように聞いたか」について聞いた際、

「新図書館複合施設整備事業について、建設推進を要望する団体や、建設見直しを求める団体から要望をいただき、事業の賛成、反対の立場から様々な御意見を

お伺いした。その日は、二月九日、二月二十日であった。「との答弁でしたが、実際には、上平地区の皆様は、二月二十日に畠山市長と面会し、署名を渡し雑談しただけでした。

二月二十日に意見を聞いたと答弁したのは、苦し紛れの言い逃れに過ぎません。

私は、極めて不誠実な対応に対し、以下の趣旨で指摘をしました。

（★過激な表現は、変更し掲載。）

そもそも、時代から取り残された「図書館本館」を利用しやすい図書館にしようと取り組んできたのが、図書館整備計画だったはずですが、昨年の不祥事以降、中断されてしまいました。

市民の意見を聞くと市長はおっしゃいましたが、積極的に聴取した事実は確認できません



更地となった新図書館複合施設建設予定地

んでした。また、検証の足跡すら我々には伝わってきません。半年もの間、議会にも経過説明せず、発表した結論も全てが、結論ありきの後付けで、「納得」とは、ほど遠いものでした。どれも市長の政治姿勢を疑いたくなるものばかりでした。

畠山市長は、「選挙戦に「図書館整備計画」を利用してしまったのだと思います。その場限りの、都合の良いことを連発し、

周囲に期待を持たせたことを、どのようか考えているのか分かりませんが、振り回されてしまった身になれば、迷惑千万であり、判断を表明して三ヶ月が経過しますが、予定地の草刈りが始まったばかり、「見直します」の予定地利用計画は、棚上げ状態です。

従って、問題を解決する姿勢すら伺えませんが、図書館建設は、不祥事とは全く関係のない事であり、業者の苦悩も計り知れません。

市長は「人の痛み」を、何とも思わないのですか？

周囲の話しも聞く振りにはしても真剣に考えていないと指摘させて頂きます。市民は、市長の言動を注目しています。財政負担が大きすぎるから「見直し」ます

とはスローガンに過ぎず、中止した事による財政ロスも多額となります。

市長には、「判断し、責任を取る」と言う事が、最大の仕事である、と、認識していますが、その任務回避するようでは、信頼が崩落していく予感さえします。

どこの自治体でも、図書館整備とは、残念ながら、ほかの施設が充足してから、初めて整備話しが浮上してきます。

市民にとって重要な施設であるにも関わらず、関心を寄せてくれる方は少ないのも現実です。ある程度、条件が揃い、機運が盛り上がらないと絶対に建設できない施設だと思えます。場所やコストを理由に中止の判断を下した場合は、未来永劫

上尾市には、図書館建設は不可能になってしまっています。

この建設工事は、沢山の方々に協力して頂き、ようやく、スタートラインに立った事業です。

「みんなの為だから協力させて貰ったよ」と言われ、お会いする度に、自然に頭が下がりました。

こんな、想いを市長は、されましたか。今の建設予定地に不満があるのであれば、同規模以上の用地確保は、市長自ら交渉して下さい。

用地交渉が、どれだけ大変なことなのか、携わってくれた職員や関係者の苦勞もご理解頂けると思っています。

建設工事中止の判断は、余りにも無責任すぎます。首長としての責任の重さを理解していません。

私には、畠山市長が上尾市のことをどの位考えているのか、確認し続ける義務があります。

私の支援者もそれを望んでいます。

図書館は単なる箱物ではありません。

畠山市長の判断は、上尾市の未来をどの位、考えての決断なのか甚だ疑問に思います。

子供達の未来に何が残せるか、考えて欲しい気持ちで一杯です。

【最後に】

市長は、一刻も早く、見直しの手法、スケジュールを公表し、見直し作業を実施することは当然であると考えています。そして、中止した案を凌駕した案が見いだせなければ、元の案を実施すべきです。